

B-32 界面活性剤による羊毛製品の防虫加工処理について (第4報)

熊本大教育 谷川美知子

目的 羊毛の防虫加工処理剤として、アニオン界面活性剤、特にLASの防虫効果について検討してきたが、今回はLAS加工布と防虫加工剤ミチンFF、オイランCNA各加工布およびドライクリーニング業者による防虫加工布について食害量と比較検討した。

またLAS加工布の防虫効果に対する洗たくおよびドライクリーニングにおける堅ろう性は既に報告したが、今回ホットプレッシングの影響について調べた。

方法 試験布としては前回と同様の白モスリンを用いて、LAS濃度5% o.w.f (助剤は添加せず) および3% (芒硝10%添加) の2種、いづれも80℃, 30分, 浴比1:50で処理した。ミチンFFは濃度1%, オイランCNAは濃度4%で、常法により処理した。また市内のドライクリーニング店のうち3店を選び、衣類に試験布を添付して、ドライクリーニングと同時に防虫加工を依頼した。LAS, ミチン, オイラン各加工布に対するホットプレッシング試験はJISによる染色堅ろう度試験法に準じて行った。食害量の測定は前回と同様、ヒメマルカツオブシムシ幼虫を用い、28日間の布減量によった。

結果 LAS 5% および3% 加工は、ミチン1%, オイラン4% 加工と食害量は同程度で、1mg/10匹、28日間にとどまり、防虫性が優れている。業者に依頼した加工布は、いづれも食害が大であった。ホットプレッシングに対しては、LAS, ミチン, オイランの各加工布とも極めて堅ろうであったが、無処理布の場合は食害量が増大の傾向を示した。

今回の実験で、LAS 5% (助剤なし) と3% (芒硝添加) の両者に防虫効力の差は殆ど認められない。このことは芒硝の添加により、LAS吸着量が増すためと考えられる。